

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 1 回相模原市学校給食あり方検討委員会		
事務局 (担当課)		学校給食課 電話 0 4 2 - 8 5 1 - 3 2 3 6 (直通)		
開催日時		令和 4 年 6 月 2 1 日 (火) 1 6 時 1 5 分 ~ 1 8 時 3 0 分		
開催場所		相模原市民会館 3 階 第 1 中会議室		
出席者	委員	1 0 人 (別紙のとおり)		
	その他	0 人		
	事務局	6 人 (学校給食・規模適正化担当部長、学校給食課長、他 4 人)		
公開の可否	可	不可	一部不可	傍聴者数 2 人 (他報道機関 6 名)
公開不可・一部 不可の場合は、 その理由				
会議次第	1 開会 2 委員紹介 3 委員長及び副委員長の選出 4 諮問 5 議題 ( 1 ) 中学校給食の現状について ( 2 ) 学校給食あり方検討委員会について ( 3 ) 全員喫食制への移行に向けて 6 その他 7 閉会			

# 議 事 の 要 旨

## 1 開会

事務局から委員会の設置及び運営に関して説明した後、出席委員の人数が定足数に達していることを確認し、会議成立の報告をした。

## 2 委員紹介

委員が自己紹介を行った。

## 3 委員長及び副委員長の選出

相模原市学校給食あり方検討委員会規則第5条第2項の規定により、委員長及び副委員長の選出について、委員の互選を行い、川崎委員が委員長に、堤委員が副委員長に選任された。

## 4 諮問

教育委員会を代表して鈴木教育長から川崎委員長に対し、「中学校全員喫食の在り方について」諮問を行った。

議題に入る前に、現在生徒が食べているデリバリー給食の試食を行った。中学校の喫食時間が15分程度かつ黙食のため、同じ条件で試食した上で以降の議論に臨んでいただくこととした。

黙食の間、管理栄養士から献立の内容や食育等について説明を行った。また、市長も参加し、挨拶の後、委員と共に給食を試食した。

## 5 議題

### (1) 中学校給食の現状について

### (2) 学校給食あり方検討委員会について

事務局より、資料に基づき一括して説明を行った。

(緒方委員) 答申発出等のスケジュールは決定事項なのか。

(事務局) なるべく早期に全員喫食を実現するための案として提示している。

(緒方委員) 他市では3カ月で決めている場合もあるので、参考にしても良いと思う。

(川崎委員長) 11月に中間答申が出せれば、予算編成を含めて、年度内に方向性が出せると理解している。

現在のデリバリー方式により全員喫食を実現するのは難しいと理解してよいか。

(事務局) 生徒や保護者からのアンケート結果を考えると、デリバリー方式を継続するのは厳しいと考えている。

(藤原委員) 全員喫食が始まる令和8年まで、デリバリー給食を食べ続ける生徒がいるため、改善が必要だと思うが、本委員会では議論の対象とするのか。

(事務局) 現在の給食提供も重要だと考えており、いくつか改善を進めている。例えば、令和4年度に汁物を週2回から週3回に改善した。また、おかずとフルーツと一緒に混在すると匂いが混ざって臭いという意見もあったので、汁物のお椀にフルーツを入れておかずと食器を分けて提供することとした。引き続き改善には努めていきたいと考えている。

ただし、本委員会で議論していただきたい諮問内容は、全員喫食の実施方式と、全員喫食の環境を生かした食育についてである。

(藤原委員) 令和8年以降は給食時間を長くすることになると思うのだが、前倒しで給食時間を長くすることはできないのか。15分で給食を食べるというのはかなり厳しいものと考えている。

(事務局) 現在の給食にフィードバックできることについては可能な限り対応していくこととしたい。

(大澤委員) 令和2年度以降に喫食率が急激に落ち込んでいるが、原因は想定できているか。

(事務局) 新型コロナウイルス感染症による影響で長期休校や衛生に敏感になったこと、経済が落ち込んだこと等、複合的な要因があると想定している。

### (3) 全員喫食制への移行に向けて

事務局より説明を行った。

(川崎委員長) 説明にもあったように平成27年の答申では、「全員喫食による完全給食が理想で実現に向けた取組を強く望む」となっている。これを受けて、全員喫食の環境を活用した学校での食育の進め方や思いについて、皆様からご意見を賜りたい。例えば、全員喫食になったら、「こんな食育をして欲しい」や「子供たちにこんなことを学んで欲しい」といった内容で良いので、それぞれのお立場で自由にご意見をいただきたい。

(江森委員) 全員喫食になると、様々な食育が考えられる。中学校の1年生と3年生では給食を食べる速さや準備時間が違う等、様々な対応が必要になってくることも考えなければならない。中学校としては、給食時間をどうやって過ごさせるかを考える必要がある。今までの流れ(=選択制デリ

バリー方式)があるので、新しい方式のイメージがしづらいが、全員喫食の方が良いと思う。

また、今は新型コロナウイルス感染症で部活動の朝練がなくなってしまったが、朝練があったときは、朝ごはんを抜いてしまい体調が悪くなる生徒が生じていた。あるいは、16時から部活動が始まるが、給食を食べて4時間くらい経って、お腹が空いたところに運動が始まる。学校側では栄養の補給が必要でないかと考えている。このように、様々な面から、トータルで食の大切さを考えなければならないと思う。

(大澤委員) 中学校は、全員で食べられる給食の最後の機会である。高校はバラバラになることが多いはずである。成長期なので、栄養摂取も重要であるが、自己管理も必要である。望ましい食習慣として、中学校を卒業後に自己管理ができるように、給食の中で教育できることがあるのではないか。望ましい食習慣という観点からも、もう少し食事時間が必要ではないか。

(緒方委員) 全員喫食で全員が同じ食材を食べないと、担任の先生も食育を実施するのが難しいと思う。

(佐藤由起委員) 単に給食といっても、小学校では、給食指導を徹底して行っている。白衣着替えの指導や、配膳の手順などの衛生の徹底、アレルギー食への対応等について、職員の給食指導も必要となり、短い時間でどのように実践するかが課題である。一方で、食育という観点では、栄養教諭の存在は、かなり大きいと感じる。給食時に巡回したり、給食内容や地場産の食材について放送したりすることで、子供たちの食に対する興味につながっている。中学校でも、全員喫食とすることは、かなり食育として有効と考える。

(佐藤陽一委員) 教員への負担はかなり大きい。教員が給食を食べる時間は実質的に5分くらいになってしまっている。私が中学校校長だった時、デリバリー方式を導入したが、非常に大変であった。配膳室に職員を何人か配置する、生徒が転倒しないように運搬の動線にも教員を配置する等、職員配置が課題になった。デリバリーでも大変だったので、全中学校の全員喫食も大変になろう。

(篠田委員) 食べていない生徒の内、男女の比率はどれくらいか。男子はデリバリー給食もよく食べているが、女子は弁当派が多いと聞く。中学生になると発育に応じて食べる量が全然違うので、調整できるようにするのも良いのではないか。

小学校では試食会などがよくあるが、現在は中学校になると試食会がなくなる。試食会があれば、親も安心する。親が安心すると、子供に給

食を勧めることができる。また、喫食時間は5分でも長くしてあげてほしい。

(事務局) 男女の比率については、アンケートで記載を求めていなかったの、把握していない。

(角田委員) 食育という観点では、食材が地場産であることを、学校内でアピールして子供たちの印象に残るようにしてほしい。また、生徒が考える献立は、食育としても非常に良い。4ページ目の「給食を通して知ったこと・学んだこと」のアンケート結果で、デリバリー校の場合は、「特にない」が最多というのが衝撃的であった。子供たちの印象にどうしたら残るのかということを考えていけばよいアイデアが浮かぶのではないかと。

(藤原委員) 小学校の給食は廊下まで香りが広がってとても良い。食育という観点では配膳式の五感を刺激する方式の方がよいのではないかと思う。全員喫食とすれば、放送などでも献立の説明もできてとても効果があるのではないかと。放送が無い場合は、何を食べているのか、よく分からずに食べているケースもある。

(松谷委員) 食を通して学んでいくのは、人が生きる上で非常に重要だと思う。小学校だけで学ぶ機会がなくなるのは残念である。中学生のいる家庭の知人に聞いたが、子供たちはデリバリー給食を選択せず、母親の手作り弁当を持参する方を好んでいるとのことである。デリバリー給食は冷めているからという理由で選択されないとあったが、家から持参するお弁当も冷めている。それでも、デリバリー給食が選ばれないという点は、いろいろと考えさせられる。なお、本委員会では、令和8年度中に全員喫食による給食提供を実施することはすでに結論として決まっていると考えてよいのか。

(事務局) 全員喫食を進めていくことについては、平成27年時点で教員委員会として決定した事項になる。また、令和8年度中に始めることについては目標であって、現段階でいつまでに始めるのかということは、決定していない。

(川崎委員長) 所得水準に恵まれず、生活が厳しい家庭がある。就学支援の施策もあるが、その範囲も、市によって異なる。相模原市ではデリバリー給食でも補助を出しているとのことだが、給食を食べていることが就学支援を受けていることなどのシグナルになるのはあまり宜しくはない。全員喫食であれば、支援の対象の生徒かどうか分からなくなることも、良い効果である。

食については家庭に委ねるところも多いのだが、朝ごはんを食べさせなかったり、食事の仕方が多様化している。そのような背景にあっ

て、学校給食が栄養補給の場になっているという事実もあるので、一定の栄養水準を確保できることは大きい。

また、食育として、食べることの背景にある事柄に対する理解が深まることは効果として大きい。食材の産地、食材の自給率を字面で覚えるのではなく、食べて、味わって五感で覚えるのは重要である。

オペレーションには課題があると思うが、全員喫食とした方が選択制よりは楽になるのではないかと考える。この点については、本委員会で議論を進めていきたい。

市長が令和8年度を目標として掲げているが、本委員会の中でもう少し腰を据えて検討をした方がよいという意見があれば、本委員会としては妨げるものではない。なるべく早期に実現ということであれば、最短で令和8年度が可能であると考えている。

(緒方委員) 就学支援を受けている方の喫食率はどれくらいか。

(事務局) 正確な数字は分からないが、50%程度ではないか。詳細は次回報告する。

(藤原委員) 共生社会を目指す自治体として、医療的ケア児への対応についても検討を進めるべきなのではないか。胃ろうの児童の給食について進学した中学校でも対応できたら良いと思う。

(事務局) 医療的ケア児への対応は重要な課題であると認識している。ただし、給食だけで進めるのは、難しいので、他の教育課程全般と給食も歩調を合わせて進めたい。

## 6 その他

事務局より、次回予定議題に係る事前説明「学校給食の実施方式について」を資料に基づき説明を行った。

(緒方委員) 補助的に親子方式も検討するというのは、どういうことか。

(事務局) 中心に検討するのはセンター方式、または、センター方式と自校方式との併用についてである。ただし、親子方式については補助的であれば導入も可能と考えている。

(川崎委員長) どの程度の供用期間を想定して施設の在り方を考えるべきなのかにについて議論が必要だと考える。少子化が進む中で自校方式の施設を整備するには、生徒数の推計値も含めて示していただき、財政状況も踏まえて具体的に検討できるようにした方がよいのではないか。生徒数の整理、今の子供が中学生になる生徒数は、ある程度想定できると思う。生徒数の傾向でも構わないので、次回には用意していただきたい。

(藤原委員) 先ほどの親子方式の説明で、小学校1校から中学校1校へは食数が足りないとあったが、愛川町では、学年ごとに別の学校から持って来ている事例がある。

また、自校方式で増改築には敷地が狭いという話があったが、川崎市では2階建ての給食室もあるので、検討できるのではないかと。

(事務局) 親子方式では、食数も大きな要因ではあるが、それに加えて様々な法的な規制等があり、いずれにしても親子方式を主たる方式にするのは厳しいと認識している。

また、一つの中学校で学年ごとに違う小学校を親校とするなど様々なアイデアを加味しながらモデルケースを次回以降に提示させていただく。

なお、給食室は相模原市でも2階建てが主流になっているが2階建てで検討しても立地スペースが足りない学校がある。

(川崎委員長) 親子方式の給食室を設置する場合は、建築基準法では工場扱いになってしまう。工場として建てられるのは、準工業地域、工業地域、工業専用地域の用途地域になるので、ハードルが高い。工業地域と工業専用地域はそもそも中学校も建てられないので、建てられる学校は限られる。

(大澤委員) 2時間以内喫食を守るためには、配送時間も含めて検討すべきことだろうと考える。配送時間を考えると、配送圏域をある程度検討する必要があると思うので、次回提示してほしい。

(事務局) 次回提示したい。

以上

相模原市学校給食あり方検討委員会 委員名簿

	氏名	所属等	備考	出欠席
1	えもり かつひろ 江森 克弘	相模原市立弥栄中学校長		出席
2	おおさわ あやこ 大澤 絢子	神奈川工科大学健康医療科学部 准教授		出席
3	おがた ゆみ 緒方 祐美	公募委員		出席
4	かわさき かずやす 川崎 一泰	中央大学総合政策学部 教授	委員長	出席
5	さとう ゆき 佐藤 由起	相模原市立若草小学校長		出席
6	さとう よういち 佐藤 陽一	東海大学ティーチングクオリフィ ケーションセンター 講師		出席
7	しのだ はるみ 篠田 春美	相模原市PTA連絡協議会		出席
8	つつみ ちはる 堤 ちはる	相模女子大学栄養科学部 教授	副委員長	欠席
9	つのだ けん 角田 健	相模原市PTA連絡協議会		出席
10	ふじわら まりこ 藤原 万里子	公募委員		出席
11	まつたに まゆみ 松谷 まゆみ	公募委員		出席